

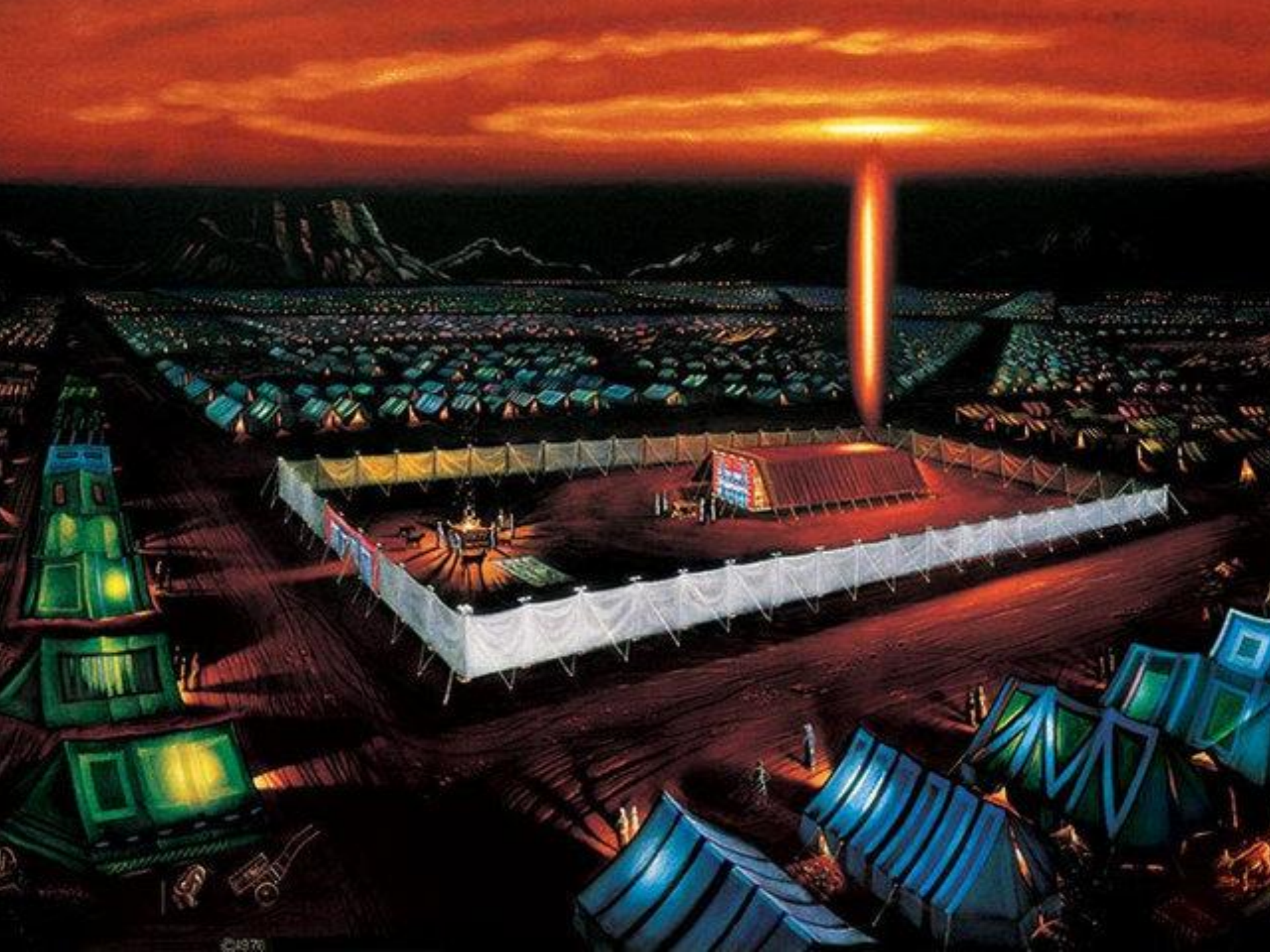
「贖罪の日」

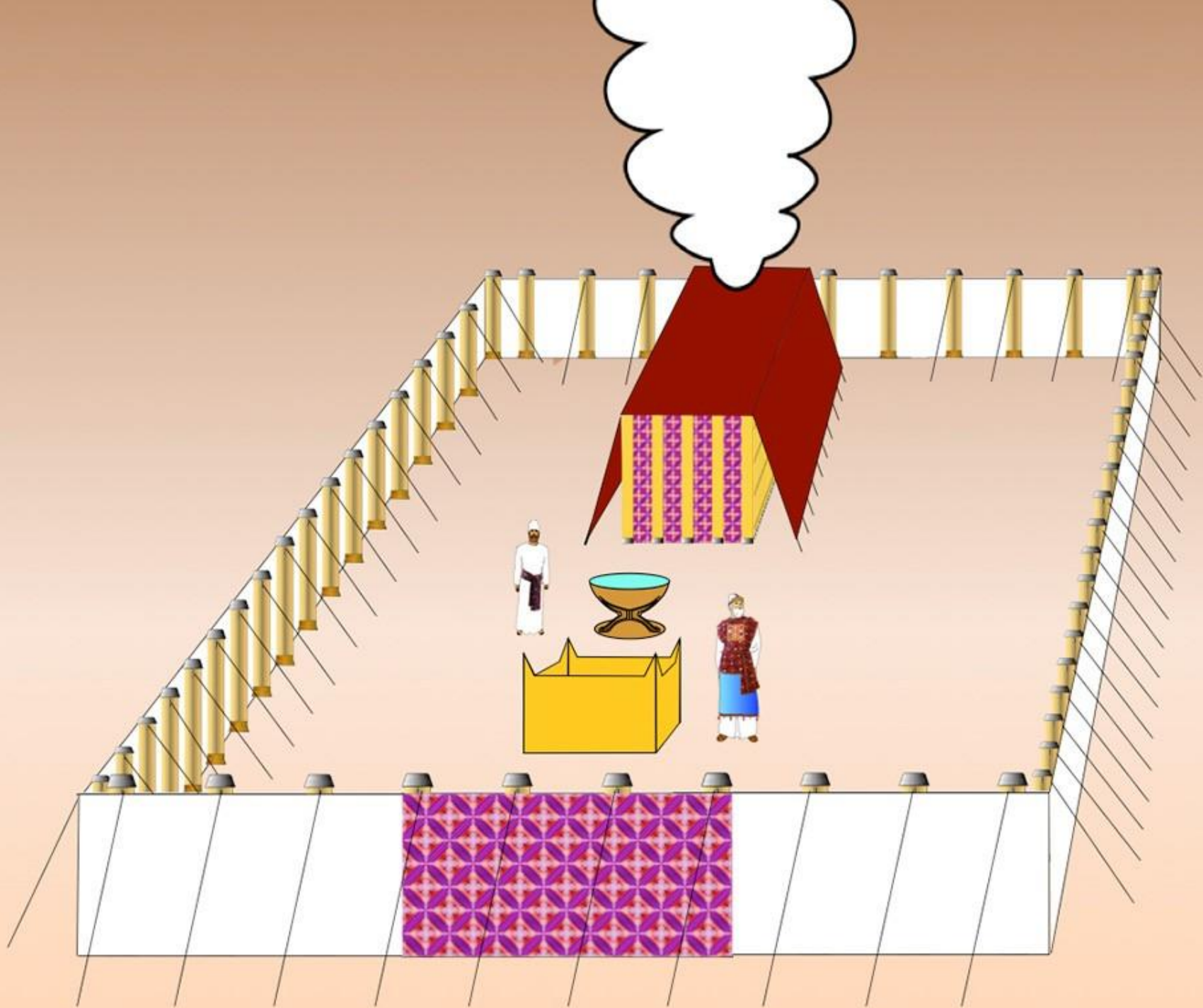
Day of Atonement

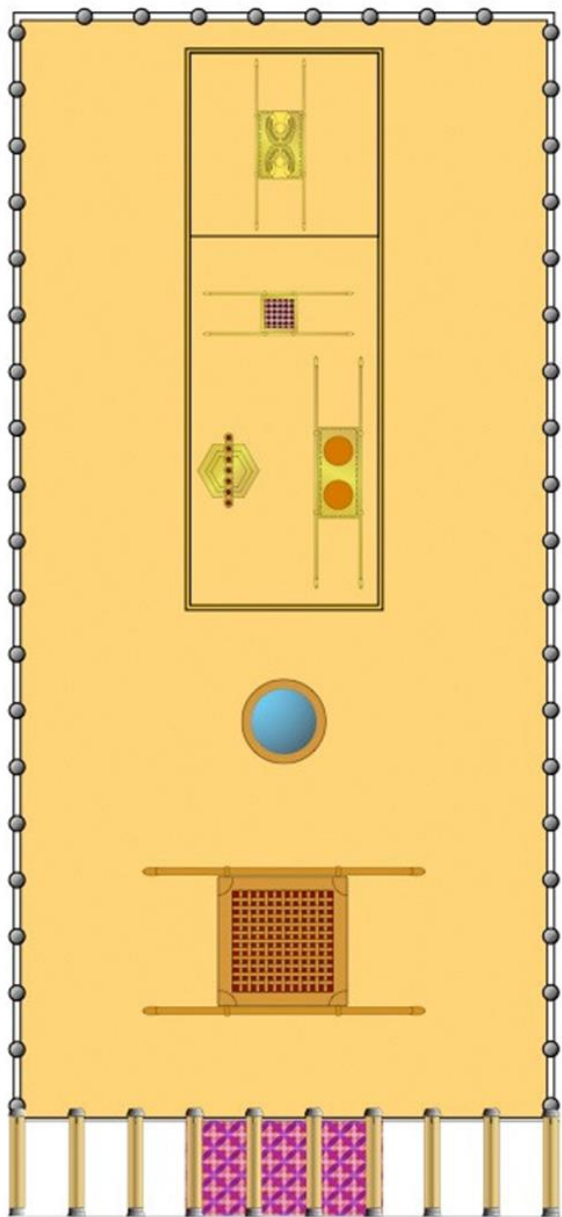
ヘブル書 9章6～10節

前回のポイント

1. 幕屋の礼拝は、天の礼拝の「影」である
2. 幕屋の礼拝は、不完全である
3. 幕屋での礼拝は、不完全ながら、
こんなにも素晴らしいものであれば、
天の大祭司であるイエス・キリストが行われる
完全な天の礼拝は、どれほどの祝福であろうか
4. 幕屋は、キリストを示すと同時に、
信仰生活のありかたをも示唆している







契約の箱

金の香壇

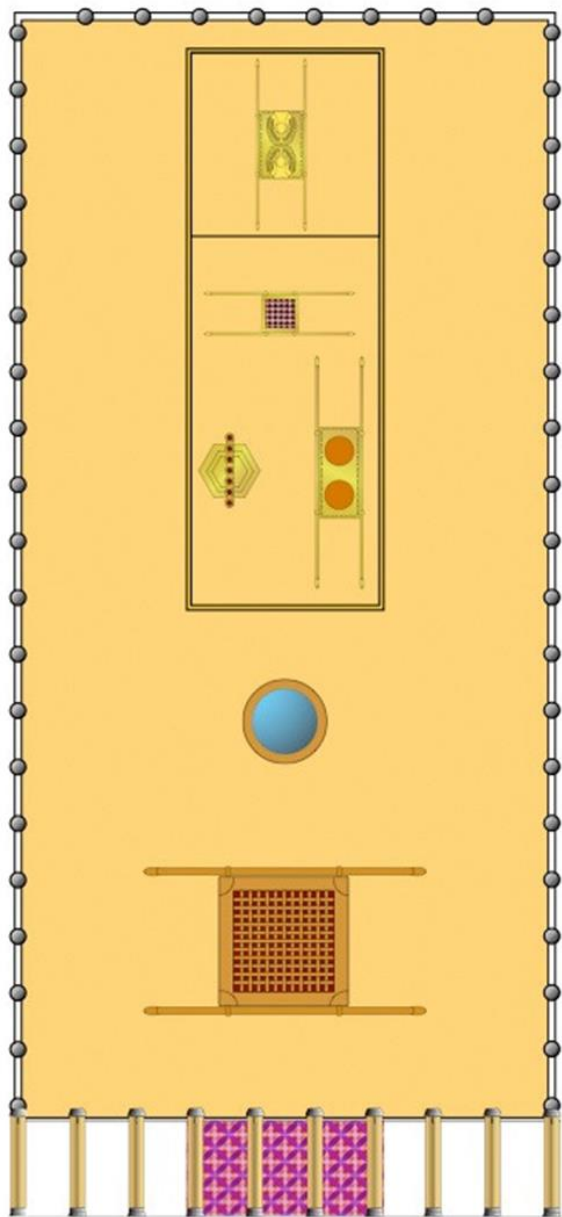
燭台

供えの
机
パンの

青銅の洗盤

青銅の祭壇





交わり

祈り

あかし

みことば

きよめ

ささげる



「贖罪の日」

Day of Atonement

ヘブル書 9章6～10節

さで、これらの物が以上ののように整えられたうえで、祭司たちはいつも

第一の幕屋に入って、礼拝を行います。

しかし、第二の幕屋には、年に一度

大祭司だけが入ります（贖罪の日）

そのとき、自分のため

また民が知らずに犯した罪のために
献げる血を携えずに

そこに入るようなことはありません。

聖霊は、次のことを示しておられます。

すなわち、第一の幕屋が存続している

かぎり、聖所への道がまだ明らかにされて
いないということです。

この幕屋は今の時を示す比喻です。

それにしたがつて

ささげ物といけにえが献げられますが

それらは礼拝する人の良心を

完全にすることができません。

それらは

ただ食物と飲み物と種々の洗いに関する
もので

新しい秩序が立てられる時まで課せられた
からだに関する規定にすぎません。

大祭司が至聖所に入る日

贖罪の日



至聖所

聖所

贖罪の日 大祭司が至聖所に入る日

大祭司は…

- ① 時をわけまえずに、至聖所に入ってはならない。
- ② からだをきよめ、
聖なる装束を身につけなければならない。
- ③ 年に一度だけ（第7の月の10日）
至聖所に入ることが許された。

あなたの兄アロンに告げよ。

垂れ幕の内側の聖所

すなわち箱の上の『なだめの蓋』の前に
時をわきまえずに入ることがないように
せよ。死ぬことのないようにするためである。
『なだめの蓋』の上で

わたしは雲の中に現れるからである。

アロンは次のようにして聖所に入る。

罪のきよめのささげ物として若い雄牛

また、全焼のささげ物として雄羊を携え

聖なる亜麻布の長服を着て

亜麻布のももひきを履き

亜麻布の飾り帯を締め

亜麻布のかぶり物をかぶる。

これらが、聖なる装束であり

彼はからだに水を浴びて、それらを着ける。

大祭司は・・・

- ① 時をわけまえずに、至聖所に入ってはならない。
- ② からだをきよめ、
聖なる装束を身につけなければならない。
- ③ 年に一度だけ（第7の月の10日）
至聖所に入ることが許された。

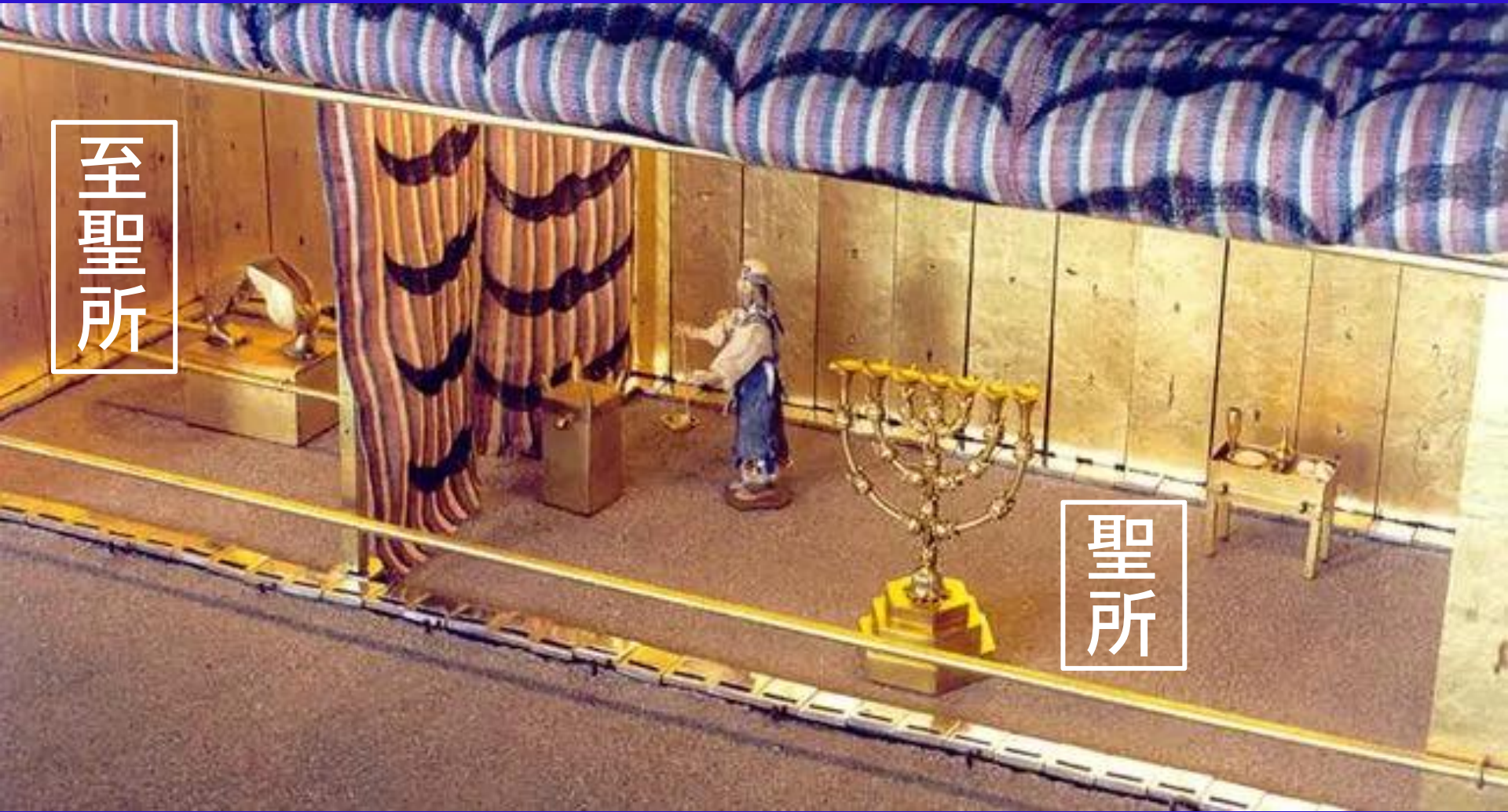
大祭司が贖罪の日になすこと

自分自身とその家族のために…

- ① 一頭の雄牛をほふり罪のためのいけにえとする。
- ② 雄牛の血を持って、至聖所に入り、「なだめのふた（贖いのふた）」に、血をふりかける。

至聖所

聖所



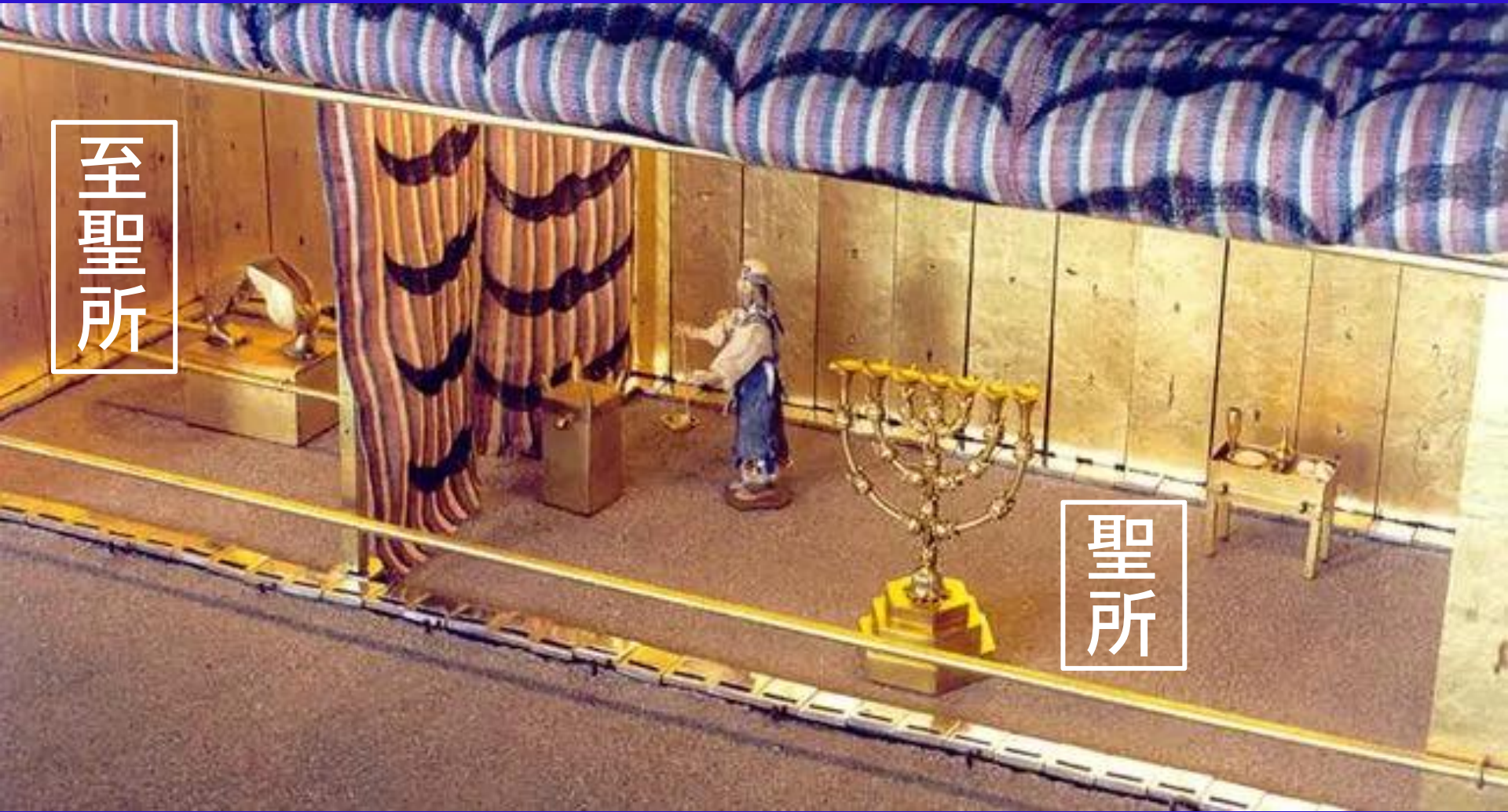


イスラエルの民のために…

- ① 一頭の雄やぎをほふり
罪のためのいけにえとする。
- ② 雄やぎの血を持って、至聖所に入り、
「なだめのふた（贖いのふた）」に、
血をふりかける。

至聖所

聖所





イスラエルの民のために・・・

- ① 二頭の内、一頭の雄やぎをほふり罪のためのいけにえとする。
- ② 雄やぎの血を持って、至聖所に入り、「なだめのふた（贖いのふた）」に、血をふりかける。

イスラエルの民のために・・・

- ① 二頭の内、一頭の雄やぎをほふり罪のためのいけにえとする。
- ② 雄やぎの血を持って、至聖所に入り、「なだめのふた（贖いのふた）」に、血をふりかける。
- ③ 生きている一頭の雄やぎの頭に、両手を置き、1年分のイスラエルの民の罪を告白し、荒野に解き放つ。

アロンは

生きている雄やぎの頭に、両手を置き

それの上で、イスラエルの子らの

すべての咎とすべての背き

すなわち、すべての罪を告白する。

これらをその雄やぎの頭の上に載せ

係りの者の手でこれを荒野に追いやる。

雄やぎは、彼らのすべての咎を負って

不毛の地へ行く。

その人は雄やぎを荒野に追いやる。



私たちはみな、羊のようにさまよい

おのおの、自分かってな道に向かって行った。

しかし

主は、私たちのすべての咎を彼に**負わせた**。

イザヤ 53章 6節

東が西から**遠く離れている**ように

私たちの**そむきの罪**を

私たちから**遠く離される**。

詩篇 103篇 12節

雄牛と雄やぎの血がなしえなかった事

雄牛と雄やぎの血がなしえなかった事

① 人の良心をきよめることができなかった

② 罪を完全にゆるすことができなかった

この幕屋は今の時を示す比喻です。

それにしたがって

ささげ物といけにえが献げられますが

それらは礼拝する人の良心を

完全にすることができません。

イエス・キリストの血がなした事

イエス・キリストの血がなした事

- ① 人の良心を全くきよめる
- ② 罪を完全にゆるす
- ③ ただ一度で罪のゆるしを成し遂げられた

また
雄やぎと子牛の血によってではなく
ご自分の血によって
ただ一度だけ、聖所に入り
永遠の贖いを成し遂げられました。

(中略)

まして
キリストが傷のないご自分を
とこしえの御霊によって
神にお献げになったその血は
どれだけ私たちの良心をきよめて
死んだ行いから離れさせ
生ける神に仕える者にするものでしょうか。

へブル9章12〜14節

今回のポイント

動物の血は、人の罪を消し去ることはできなかった。

毎年、繰り返して、動物の血をささげなければならなかった。

人は、毎年、自分の罪を思い出さなければならなかった。

今回のポイント

イエス・キリストの血は、人の罪を完全にきよめることができる。

イエス・キリストの血は、ただ一度で、罪のゆるしを成し遂げた。